



〈サロン・あべの〉8月の出会い

平成16年8月8日(日)、〈サロン・あべの〉8月の出会いは毎年恒例の「あべのカーニバル(第31回)」なんでも市に参加して「さろん亭」を開店しました。

この日、午後12

時過ぎから「さろん亭」開店準備のために、市立工芸高校グラウンドに品物を運び込みました。グラウンド内の「なんでも市」どおりの中では、早くも多くの

店が出店準備を完了しています。

「さろん亭」も皆さんから提供していただいた品物を所狭しと品目別に分けて置きます。テーブルにはサロングッズや手作り作品、そしてちよつと洒落たアクセサリーやハンカチなどの小物

を並べます。次に目玉商品であるタオルや石鹸は目抜き通りに面した中央に置きます。それらの続きに雑貨や台所用品を並べ、お客さんの目が隅々まで行き届くよう並べます。

さろん亭
今年も
千客万来

今年、この準備時間帯にお客さんが買物に来られて品定めな

です。そのサロンの暖簾を目当てにやって来ましたと言っています。例年、この準備時間帯にお客さんが買物に来られて品定めな

後3時の開店が周知されていたのか、猛暑がお客さんの出足を遅らせたのかはわかりませんが、スローペースで始まりました。午後3時、市立工芸高校吹奏楽部の演奏で開会されるとまたたく間にお客さんがどつと来られ、お目当ての商品の品定めをされます。

店頭ではお客さんとの値引き交渉など真剣なやり取りが交わされますが、「さろん亭」は5時までは値札厳守で販売をします。多くの皆さま方にご提供していただいた大切な品物です。それを市価の半額以下の値札を付けて店頭で置いているのですから、そこからまだ負けてと言われると「5時過ぎに来てください。その時から半額になります」とお伝えします。でも、皆さん良い品物は良くご存知ですから、買い求めてゆかれます。中でも石鹸は銘柄に関係なく同じ値段に

は銘柄に関係なく同じ値段に

なっているのです、まとめ買いをされる方が多かったです。

また、グラウンドでは阿倍野区内の中学、高校の吹奏楽部の演奏やトークショー、カントリーダンスなどの催し物がつぎつぎと繰り広げられて、カーニバルを盛り上げていきます。

黄昏時になってくると、8時から始まる盆踊りを目当てに浴衣姿の人たちが三々五々集まって来ます。その中で「さろん亭」は心を残しながら6時に閉店しました。

毎年の事ですが、品物を寄贈していただいた方、前日の値札付けや品物の搬入、当日の販売のお手伝いや後かたづけなどなど、本当に多くの皆さんにお世話になりました。ありがとうございます。

今年も多くの皆さんに支えられた「さろん亭」でした。

(山村貴司)



賑わう「さろん亭」

ありがとうございます。

カンパ、お茶・お菓子・さろん亭用品など
のご寄贈ありがとうございました。

また、さろん亭を開店するに当たり、寄贈
品の搬送、値段付け、販売など、お手伝い
いただきましてありがとうございます。お陰
さまで「さろん亭」は、多くの皆さまに「こ
店いただき賑わいました。売上げも昨年を上
回りました。これもひとえにみなさまのご協

力、ご支援の賜物と厚くお礼を申し上げます
と共に深く感謝しております。

さろん亭売上げ 金75125円

(サロン・あべの)運営委員会

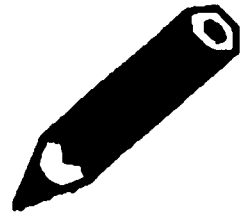
安達尚子、有野千代乃、伊勢村和子、
井上昭一、井上礼子、大谷美津子、奥田久子、
加賀谷正、風智恵子、神谷君菜、桑田加代子、
神城昭子、小西京子、目和子、実重久美子、
大丸久美子、高尾澄男、竹下秀樹・洋子、

田中米蔵・光子、田邊徳孝、千代松真佐子、
辻本輝子、手島八重子、富田慶子・十一、
中西利香、中根真、中村久子、中村宣子、
中野咲子、難波りんご、原田咲子・友弥・
博子・仁、久木浩、廣田佐保、表谷恵美子、
藤井さゆり、松村美鈴、道川内喜美子、
村松育子、山梨徳治、山野荘一、山村貴司、
山村久子、山本敏子、山本篤江、吉原和郎、
その他の方々。(敬称略)

……ききみみずきん

防災訓練

災害は忘れたころにやって来ると
言いますが、今年は多くの台風が発生し各地で多大な被害を出しています。ニュースでその状況を見るたびに障害者がそこにいたらどうなっているかと不安がよぎります。台風はある程度予測がつかますが、火事や地震などの災害は思いがけない時に起こります。その時の対処法は知っているようで知らないものですし、慌てると何をどうすればよいかも忘れてしまいます。阿倍野区では毎年秋口に防災訓練が行われます。区内10町会から参加した人たちが炊き出しや初期消火訓練、バケツリレー、三角巾の応急処置などを体験します。また、専門職員による倒壊家屋からの救出や交通事故車両からの救出訓練などが同時進行しています。区の身体障害者団体協議会の会員方もいくつかの訓練に参加しました。私も三角巾の扱い方や煙からの避難訓練に参加した事があります。出来る出来ないは別として、地域の人たちと同じ場で共にさまざまな訓練を見たり参加したりする事は意義のある体験だと思います。救援物資配給では、水とカンパン、タオル、ティッシュ、炊き出しなどがありました。我が家ではこの水とカンパンを1年間、常備品として置きます。これを見るたびに防災の心の準備が問われているように思い、忘れないようにと…。(け)



邦子、 ..ん歳の手習い。

重度障害者の自立生活

私の夫は、34歳の時に交通事故で、頸椎損傷により要介護の車いす使用者となりました。そして、約1年間のリハビリを含めた病院生活の後に、短大教員として復職することができました。復職後、教員としての仕事も社会的活動も果たしていましたが、介助がなければ生活できませんでした。夫は経済的自立も社会的自立もしていましたが、衣服の着脱衣などの身辺介助や移動介助を受けている自分は、妻やボランティアに依存して自

立していないのではないかと考える時がありました。

そのような自立の迷いへの回答を与えてくれたのは、アメリカの障害者自立生活運動から提起された自立生活思想でした。「人の助けを借りて15分で衣服を着て、外出し、社会参加できる障害者は、自分で衣服を着るのに2時間かかるために家にいるほかはない障害者よりも自立している」という障害者自立生活の代表的思想は、他人の介助による自立という考えを生み出しました。

アメリカの自立生活運動は、自立生活運動の父とされているエド・ロバーツがカリフォルニア大学バークレー校に入学した1962年のある日に始まったといわれています。エドは14歳の時にポリオになり、重度障害者となりました。大学入学後は、キャンパス付属のコーウエル病院を寄宿舎とし、カリフォルニア州の全身性障害者援助プログラムを利用

して、介助者の雇用、訓練、解雇を自分自身で行い、学生生活を送りました。その後、エドを含めコーウエル病院の重度障害者も寄宿舎は病院を出て、生活を大学の学生寮に移し、連邦資金援助を受けて、キャンパスでの障害者学生プログラムを確立していきまし

た。それは、障害者は患者ではないという医学モデルの否定と同時に、選択する消費者であるということの主張でした。そして、キャンパス以外の重度障害者がキャンパスと同様

お知らせ

<サロン・あべの>10月の出会い

内容…阿倍野防災センター見学
 日時…10月16日(土) 午後1時～4時
 集合=阿倍野区民センター1階ホール、午後12時30分
 場所…阿倍野防災センター
 大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23
 電話06-6643-1031
 会費…なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)
 ※今回は集合時間・場所が違いますので、ご注意ください。

の介助サービスや居住サービスを受けられるように障害者の自立を援助していくために、地域に「自立生活センター」がつくられてきました(チャワ・ウィリグ・レビ著『自立生活運動人物史』より)

アメリカにおいて重度障害者主体の自立生活運動が提起した自立生活理念は、運動とともにわずかな期間に全米各地に波及し、北欧諸国や日本にも影響を与えました。その理念は、それまで障害者関連のリハビリテーション界で支配的であった経済的職業的自活や身辺自立とは異なる自立感を構築しました。介助者のケアを受けて、自らの人生や生活のあり方を自らの責任において決定し、また自らが望む生活目標や生活様式を選択して生きる行為を自立とする考えであり、障害者自らが主体者となって生きる行為を自立生活とする理念です。そして、この運動の中では、介護受給権の保障や地域居住サービスの整備などの重度障害者の地域自立生活権が目指されました。

私の夫は、この自立理念を知って、目から鱗が落ちる思いであり、自分は介助は受けているが自立していると確信したと言っていました。

(定藤邦子)

これは便利。

一筆箋

1冊100枚綴 ¥150—

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。

強いられる献身

「どんな悪人でも死ねば誰でも仏だ」というセリフがある。時代劇だったか、落語だったか、よくは覚えていないが、よく聞く言葉ではある。私はこの言葉を面白く思っている。



これが正しければ、死ぬことは人を善人にしてしまうのである。いや、善人どころか「仏」なのだからこの世で最高の善人になってしまう。悪人をも含めて、どんな凡人でも聖なるものになる。死は変えてしまうのだろうか。

もし、そうだとしたら、それは何故なのだろう。死んだら善人になれるのは、なぜなのか。それを考えたとき、私がふと思ったのは次のようなことである。

ここに一人の人がいる。その人は自分が一生をかけて築き上げた財産をすべて他の人に与え、自分には何一つ残さないでいる。しかも全くそれに対して他の人に恩着せがましいことを言わない。静かに沈黙している。こんな人が実際にいたら、もはや聖人にちがいない。そして、こんな人は私たちの身近にいくらでもいる。つまり、死んだ人がそうなのである。

彼らは死ぬことで自分が持っていたすべてのものを周囲の人に譲ってしまう。しかも死んでいるのだから、それに対して文句も言えない。

つまり、聖人そのものなのである。

自分の持ち物をすべて譲る、財産だけではなく、地位や名声や、人間関係すらもすべて譲ってしまう。そのことだけでも聖なる人の条件はそろっているかもしれないが、さらにあと一つの条件を考えてみれば、死者は自分に与えられた運命を受け入れている。

たとえば、ここに百万人に一人しかかからない稀な病気に苛(さいな)まれ、苦しみ、死んでいった人がいるとしよう。百万人に一人とはいえ、逆に言えば、百万人のうちの誰か一人は、この病気で苦しむ必然があった。とすれば、この人が一人苦しみ、死んでいったことで、自分以外の百万人の人たちがその病に苦しむことを免れたのである。見方を変えれば、この人は自ら苦しむことよって百万人をその苦しみから救っている。しかも、それに対して自分の運命を嘆くこともない、なぜならもう死んでしまっているのだから。

つまり、死は死んでいく人からすべてを奪い、それを周囲の人に残していく。あるいは生きている他の人の代わりに死の苦しみを受けている。それは見方を変えれば、他の人々の幸福

奥田真祐美 リサイタル
 ジャン・フェラをうたう～夜と霧

さまざまな愛、そして人間の苦しみと悲しみ、喜びを今年も心をこめて歌います。

歌＝夜と霧

街の静けさの中で
 理由もなく
 愛の讃歌
 ポン・ボヤージュ 他

◆大阪公演

日 時＝11月13日(土)
 開場18時
 開演18時30分
 会場 場＝サンケイホール
 料＝前売¥5000
 当日¥5500
 演 奏＝西川真・葉子ストリングス・オーケストラ
 チケット取扱・ご予約・お問合せ＝
 奥田真祐美音楽事務所
 TEL・FAX 06-6692-8774

のための全き献身である。この献身によって死者は仏になるのだろう。

ただ、死の結果を献身と考えるのは無理があると感じる人もいるかもしれない。献身は自ら進んで行うものであり、そうであって初めて美しい。一方、死はほとんど誰も望まない。望まない死と、自ら進んで受ける献身とを同列に考えられないではないか。

このような疑問には私はこう答えたい。なるほど、死は誰も望まないだろう。しかし同時に

誰も死を避けられない。言い換えれば、私たちは献身を避けられない。全き献身を避ける道はどこにもなく、私たちは最後に献身をするよう定められている。

老いて死んでいくとは、それはそのような献身への道なのかもしれない。私たちは誰もが強いられる献身を自分のものとしなければいけない。死者を迎える盆の日に、そんなことを考えていた。

(知)

重症心身障害児施設建設を支援!

チャリティー絵画展

(現代国際巨匠絵画展)

趣 旨：大阪市に長年待ち望んでいた重症心身障害児施設が開設されることになりました。人所機能を含めたさまざまなニーズに応えられる施設づくりに大きな期待をしているところです。その施設づくりを支援するためのチャリティ絵画展を企画しました。

皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日 程：10月9日(土)～11日(月)

10時～18時

場 所：アポロホール(アポロビル6階)

〔大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-1〕

問合せ先：大阪府重症心身障害児者を支える

会事務局

チャリティー企画現代国際巨匠絵画

展実行委員会

電話 06-6624-2555

(担当：清水)

美智子のこんな話

岸田美智子

近畿地区から統合問題反対の動きをつくろう！

先日、このコーナーで6・9全国大行動のことを書かせていただきました。

この介護保険統合問題については厚生労働省から少しずつ案が出されてきています。その中の一つに「長時間の介助が必要な障害者には、時間数に関係なく介助者派遣事業所へ総括払い」といって一定の金額しか介助料が出ません。たとえば介護保険の上限に合わせて考えると1カ月36万円になります。

今の情報では4万とも5万とも言われています。実質的にはこれが上限になってしまいます。これでは1日に4〜5時間しか介助保証されないことになってしまうのです。後は事業所からの持ち出しや介助者の時給を下げてやっつけていくしかなくなっています。

障害者には、時間数に関係なく介助者派遣事業所へ総括払い」といって一定の金額しか介助料が出ません。たとえば介護保険の上限に合わせて考えると1カ月36万円になります。

きた障害者の自立生活運動が根底から覆させられてしまうことになります。大事なこの時期に全国障害者自立生活協議会（JIL）加盟団体を中心にすりを超えた動きを作ろうと6・9全国大行動 関西実行委員会の設立を呼びかけています。

6・9全国大行動 関西実行委員会
みなさん一緒にやりましょう！ ---
関西実行委員会準備会

こんにちは。みなさんお元気でお過ごしでしょうか。

さて、介護保険と支援費の統合問題はいよいよ山場を迎えようとしています。この闘いは障害者運動の歴史をかけた闘いです。30年の障害者運動の積み重ねを覆されるのか、それとも阻止できるのか、大一番です。

この重大な闘いの中で、関西にいる私たちも出来る限りのことをしてゆきたいと思いました。いままでは東京のメンバーを頼り、ただ集合に参加するだけでしたが、もっと積極的にかかわり、関西地区から統合反対のうねりをつくりたいと思います。

そこで、8月22日に近畿地区のJIL加盟団体を中心に呼びかけたところ約100人の方々がお集まりくださいました。関西地区で団結して行動しようとして「6・9全国大行動 関西実行委員会準備会」を立ち上げました。東京の実行委員会をサポートするとともに、関西でもシンポジウムや議員回りなどを行い、マスコミにもどんどん取り上げてもらって、統合反対のうねりをつくり出してゆきます。

この会は、現在準備会です。知的障害のみなさん、精神障害のみなさん、6・9大行動の賛同団体のみなさん、多くの団体にご入会いただき、団結して行動してゆきたいと思えます。

介護保険と支援費の統合反対のうねりをつくりましょう

また、9月23日頃にはシンポジウムも企画されていますし、10月5日頃には厚労省抗議行動も決定されています。その関西実行委員会準備会の呼びかけ文（上）を掲載しておきます。一人でも多くの皆さんの結集を期待しています。

シンポジウムについてや、詳しい行動予定などは随時決定されていきますので、お知りになりたい方は左記連絡先まで問い合わせてください。

○連絡先

障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会
議（障大連）

大阪市天王寺区生玉町5-33

大阪府障害者社会参加促進センター内

TEL 06-6779-8126

FAX 06-6779-8109

気になる介護保険と支援費

いつも「サロン・あべの」紙を送っていた
だき、ありがとうございます。

障害をもった人が生活しやすいのは「バー
クレー」とずい分前に聞きました。そのつな
がり（サロン・あべの）さんを紹介して
もらいました。

私も養護学校につとめて13年になります。
ここ毎年のように保護者会、教員主催の支援
費制度についての学習会があります。どうも
使いにくそうですね。これから介護保険と関
連してどうなるのでしょうか。

障害児の子育ては、いまだやはり「母」の
がんばりにかかっているのが現実ですね！。

西村元子

「色」といえば、私はクレヨンや絵の具の
色と好色、つまり女を好む男というものを
連想する。でも「色」という意味はいろい
ろあるが、だいたい次

のように大別される。

1. 色彩に関すること。
2. 容姿などが美しいこ
と。
3. ものの趣（趣味）。
4. 愛情。

ところで「いろいろ
な人」や「人生いろい
ろ」の「いろいろ」を漢
字で書けば「色色」だ
が、この場合はひらが

なで書いた方が相応しい。この二つの言葉
からこんなことを思い浮かべる。私はこれ
までずい分いろいろな人と出会ってきた
が、良き人に会おうと何かほっとさせら
れ、幸せな気分になれるのである。そう言

えば今は亡き作家の亀井勝一郎氏が、「人
生の最高の幸せは邂逅（出会い）である」
とされているが、本当にそうだと思う。

そしてまたどこかの国
の総理大臣が国会で
「人生いろいろ、会社も
いろいろ、社員もいろ
いろ」と発言されて物
議を醸したのは、まだ
記憶に新しい。

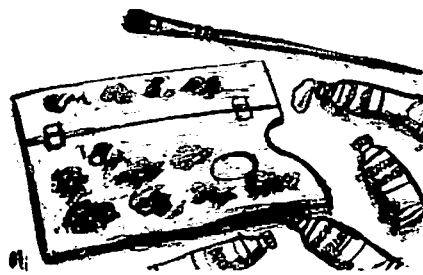
「色」のついた言葉は
たくさんあるが、私は
「青春、朱夏、白秋、玄
冬」という言葉が好き
である。言うまでもな

くこれらの言葉は四季の上にそれぞれの色
をつけてあるのだが、四季の他に人生の移
り変わりも表しているのではないだろう
か。私は気分はいつまでも、「青春」だが、
身体の方は最早「玄冬」？

晴れのち晴れ 72

色

稲垣恵雄



赤松 昭

「谷間」に こだわり続けて

4

― 比べることのできない生きづらさ ―

初回連載に金光さんから感想とご意見をいただきました。拡大文字使用者が情報保障の面で、大きな谷間に直面する現状を改めて認識させていただきました。同様の話を難聴や中途失聴の方からもよくうかがいます。聴覚障害者のコミュニケーション手段と言えば手話を思い浮かべがちですが、こうした方々は手話を習得していない場合も多く、例えば補聴器を使用している方にとっては、音声を直接電波で補聴器に飛ばす「磁気ループ」とい

う機械が必要です。ただ、この機械を備えた建物はまだまだ少なく、難聴・中途失聴者の情報保障も谷間に面していると言えます。ただ、そうした事情をよく知らない方は「全く見えない（聞こえない）」よりは、「少しは見える（聞こえる）」方が良いと考えがちで、こうした誤解が金光さんの直面する谷間を生み出している一因とも考えられます。

これが誤解だけで済めばいいのですが、場合によっては当事者を傷つけることもありま

す。これは前号で紹介した高次脳機能障害のある方が通う作業所で聞いた話ですが、ある女性がボランテアとして来られたそうです。ところが来るなりいきなり本人達に向かって、「世の中にはもつと重い障害を持つ人達がいるのよ！ だから手も足も動くあなた達はもつとがんばらないとダメじゃない」とご説教を垂れたそうです。その方は元気がない本人達を励まそうと親切心で（だからこそタチが悪いのですが）はつばをかけたのでしようが、この方は本来、比べることができないものを比べるという大きな間違いをしています。確かに、手帳の等級というもの

が存在していて、その数字を比較することは可能ですが、しかしその方の抱える「生きづらさ」は比べられるものではないはず。もうと言えば人間の生活というものには、制度によって分節化されたものの中にあるのではありません。しかし残念なことに現在の障害者福祉制度は、「障害」「健常」の二分法をもとに作られていて、本来多彩な人間の「生」のあり方を支えるものにはなっていないのです。

多種多様な人の「生」。それを漏れなく支える「制度」というものが果たして存在するのでしょうか。諸外国にはいくつかのモデルがあります。それをこの国に活かすには多くのハードルがありそうです。実はこれはこの連載の一貫したテーマでもあります。「谷間」を考えることは「福祉」を考えることにつながる。金光さん、私は考え続けます。

サロンの絵はがき

組五枚セット 一八〇円



関西ニュース

■「サロン淀川」10月の出会い

日 時：10月17日(日)午後1時30分～4時
内 容：ピーピーコンサート

～懐かしいメロディーを楽しみましょう～

ゲ スト：加藤豊洋氏 日本草笛の会(関西)

会 費：なし

場 所：淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎ 06-6394-2900

E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」10月の出会い

日 時：10月9日(土)午後1時30分～4時
内 容：手話の指文字を学ぼう！-応用編-

場 所：西区在宅サービスセンター6階

ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

☎ 06-6539-8075

会 費：なし

問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン・ひらの」10月の出会い

日 時：10月23日(土)午後1時～

内 容：ビデオ鑑賞

会 費：未定

場 所：にこにこセンター3階

大阪市平野区平野東2-1-30

問い合わせ先：にこにこセンター

☎ 06-6795-2525

安達 ☎ 090-7755-7899

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日 時：10月23日(土)10時30分～15時30分

内 容：パン作り&手織り&太鼓&風工房ひめじ

まのパンやお菓子の販売

プログラム：①パン作り ②手織り ③太鼓

*パン作りに参加の方は14時30分に終了後、手
織り&太鼓の会場に移動

材 料 費：①パン作り=1000円(昼食用,お土産用)

②手織り=1g10円(4～500円程度)

③太鼓=300円

定 員：①パン作り=8名 ②手織り=8名

③太鼓=20名

申し込み締め切り：10月8日まで(場所、持参するも
のなどお問い合わせください)

問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター

☎ 06-6494-0635

中本 ☎ 090-9864-9678

■サロン「アイ」10月の出会い

日 時：10月9日(土)午後1時30分～4時
内 容：共にくらす

パネラー：福原 理佳氏(トータスハウス施設長)

会 費：なし

場 所：「おkachayama」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎ 06-6712-3101

○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。

☎ 06-6757-8574

■「てくてくすみよし」10月の出会い

日 時：10月9日(土)

集合=午前11時JR阪和線「百舌鳥駅」

内 容：大仙公園で焼き肉

場 所：堺市・大仙公園内

会 費：2000円

申し込み締め切り：9月30日

申し込み・問い合わせ先：

山本 篤江 ☎ 06-6692-8411

携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」10月の出会い

日 時：10月3日(日)午後1時30分～4時

内 容：年賀状を楽しもう

～初心者の方から経験者まで、心に残る

筆文字で来年の年賀状に挑戦～

講 師：向井 千明氏

*書道具、筆ペンなどお持ちの方はご持
参ください

会 費：なし

場 所：鶴見会館2階

大阪市鶴見区横堤5-5-51

問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビュー
ロー) 田村 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」10月の会いはお休みです

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第218号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第218号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー!」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン!」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

寄りみち



サロンの「絵はがき」に籠に入った柿があります。ちょうど今が旬の1枚。柿は秋果の代表的なもので、柿色という色名を広辞苑で引くと、柿渋の色に似た赤茶色、あるいは紅殻に少し黒を加えた暗褐色の染色。とあり、昔は柿色のイメージが違っていたようです。最近はおっぱら柿の実のような色を柿色というようになり、「絵はがき」に見る柿が色づいた赤い色、柿紅葉の鮮やかな紅、朱、黄を見ると秋を思います。(石)

<サロン・あべの>VOL. 219 発行:平成16(2004)年9月18日 定価¥100
 編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:中西利香・筆 文中イラスト:石田美禰子
 事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷:セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>